

血管内治療内科 (循環器内科)

虚血性心疾患、全身の血管病変のカテーテル治療を主軸に循環器全般に対応しています。

カテーテル治療を含め治療方針は、治療成績や患者さんの予後などを総合的に考慮して決定しています。また、三次救急病院として、毎年70-100件の急性心筋梗塞に対して、24時間対応の体制で緊急カテーテルを実施しております。年間アンギオ件数は約700件前後。PCIは220~250件前後であり、そのうち緊急カテーテル治療は100~120件前後です。また Rotablator実施施設として認定されています。当院のPCIの特徴は緊急PCI: 予定PCIが、例年1:1.5前後と、他病院と比べると緊急PCIの比率が圧倒的に高いことです。これは、待機的PCIは、原則全例に負荷心筋シンチ検査を行い、虚血を客観的に証明して厳密に適応を決めているためです(Occulo-stenotic Reflexを回避)。

また、虚血性心疾患だけでなく、下肢動脈に対するカテーテル治療や、不整脈に対するカテーテルアブレーションも行っています。



血管内治療内科研修指導責任者

橋口 直貴

血管内治療内科部長 / 日本内科学会認定内科医、日本内科学会認定総合内科専門医、日本循環器学会認定循環器専門医、日本不整脈心電学会認定不整脈専門医

■研修指導医
血管内治療内科副部長 / 山田 興

01 研修期間

2年間

02 目的

内科専門医取得に十全な臨床知識および経験をつみ、内科医として見識と自己研鑽能力の基礎を作る。またその基礎の上に循環器内科の専門医となる過程となるべき臨床経験をつむ。

03 到達目標 (目標、長期目標、一般目標、取得手技、コンセプト等)

- (1)内科専門領域の急性慢性疾患の全てについて主治医としてマネジメントができ、専門的診療についてもその適否が的確に判断できる。
- (2)内科救急領域で必要な全ての応急的対応・初期治療ができ、さらに専門的救急診療手技にも参加できる。このため全研修期間を通じ、急性心筋梗塞などの救急疾患に対して24時間拘束体制で対応するローテーションに参画する。この際には、循環器専門医を指導医としてのチーム体制を敷いている。
- (3)臨床医としての高い見識と広い視野を持ち、様々な条件の患者に対して、与えられた医療環境で最善を尽くすことができる。このため院内で行われる様々な医療に関する研修会に参加する。
- (4)内科学会認定内科医の資格を取得する。症例報告などの学会発表も積極的に指導し、認定内科医取得を目指して総合的な観点から日々の診療を行うよう指導している。
- (5)循環器内科医への臨床経験をつむ。心臓・血管系に関する豊富な知識と技能の習得を目指し、循環器疾患の適切な診断・治療及び予防ができる能力を有することを目標とする。

04 取得可能資格

学会名	取得可能資格	学会の研修施設等指定・認定状況
日本内科学会	日本内科学会認定内科医	日本内科学会教育病院
日本内科学会	日本内科学会内科専門医	日本内科学会教育病院
日本循環器学会	日本循環器学会専門医	循環器専門医研修施設

05 研修期間中に経験する症例・習得すべき手技

- 急性心筋梗塞、狭心症、うっ血性心不全、不整脈、大動脈瘤・大動脈解離、肺動脈血栓塞栓症、閉塞性動脈硬化症、心筋症、感染性心内膜炎
- PCI、ペースメーカー手術、末梢血管形成術、IVC、Filter留置、心エコー、運動負荷試験、心臓カテーテル検査